

『俳句』 試訳—アメリカ発俳句入門 (2)

松井貴子

俳句創作七つの秘訣

秘訣1：定型

英語で（三行）

古い池—

蛙が飛び込む

水の音

日本語で（十七音節）

古池や（五音節）

蛙飛び込む（七音節）

水の音（五音節）

辞書を見てみると、俳句は、日本の短い詩で、たいていは自然と関わっていて、十七音節である、と定義されているのが見つかるだろう。上記の蛙の句のように、すべての日本の伝統的な俳句には五、七、五の三つの部分があり、合計で十七音節になった。これらの俳句は、通常、墨と筆を使って、一行で書かれていた。今日でも、大部分の日本人はまだ、俳句を頁の上から下へ、長い垂直な一行に書いている。英語では、俳句は音節を数えるゲームのようなものであると耳にしたことがあるかもしれないけれども、それは、英語俳句において重要なことではない。俳句は、体験することであって、音節を数える行為なのではない。重要なのは、「俳句的瞬間」を体験し、自然とのつながりを持つことである。

英語では、決まった音節を数えないで、俳句を三行に書くことが最もよい。実際のところ、俳句は、一息と同じ長さでありさえすればよいのである。英語では、一息の長さは、一句につき、およそ八つの単語に相当するだろう。八語で、日本語の一句と同じ分量になる。英語と日本語は大きく異なっているので、日本語では、十七音節は六語ほどになるが、英語の十七音節は、通常、約十二語か、それ

以上になる。それゆえ、英語では、たいていの場合、俳句として十七音節は長すぎるであろう。俳句を作るときには、およそ六語から十語くらいで一息の長さにする事から逸脱しないようにしなさい。一息の長さになっているかどうか吟味するには、俳句を声に出して読んで、一息にぴったり合っているかどうか確かめなさい。どうして、こんなことをするのか？という、俳句は、俳句的瞬間をとらえる経験である — それで、そのような瞬間は、蛙が水に飛び込んだ音を聞いた瞬間のように、すぐに失われてしまう。その一瞬は、「ああ！」とか「おお！」と口にするとき、それもまた、とても短いものであるが、不意打ちのようなものである。その不意打ちは、息を飲ませる。それが、「俳句的瞬間」であり、それは、ほんの短い一息の間、続くだけである。だから、その瞬間を追体験するために、俳句は短くなければならない。

もちろん、ただ戯れに、一行目が五音節、二行目が七音節、三行目が五音節と、語の音節を数えて、俳句をいくつか作ってみたいと思ってもよい。ここに例示するように、まれには、英語で十七音節を数えて、優れた俳句を作ることができる俳人もいる。

(5)... そして今、猫が来る

(7) 月光を浴びて、その影は

(5) 猫そのものよりも黒い

—パトリシア・マックミラー（アメリカの俳人、1941—）

しかし、英語の十七音節は、大部分の俳句や、この同じ蛙の句の訳で、そうであるように、俳句を冗長で、ごちないものに聞こえさせてしまうことがあると気づくかもしれない。

古い池がある（五音節）

蛙がそのなかに飛び込んでいる（七音節）

水の音（五音節）

だから、最もよい方法は、十七音節を使わないで、代わりに、三行にするだけであると勧めている。英語の三行詩を均整のとれたものにするには、二行目を他の行より長くするようにするのがよい。俳句は短く、一息の長さにしなさい。自

然のなかで、「あっ！」という瞬間に注意を向け、俳句を口に出して一息の長さであることを確認し、そして、俳句に使った語の響きに注意を向けなさい。一俳句は、耳に心地よく、自然に聞こえて、自分の語り方で話しているようなりズムがなければいけない。自分の俳句を音読しながら、聴く練習をしなさい。一俳句を作るための眼と同じく耳を鍛えなさい。

もう一つ、心に留めておくことは、俳句は文ではないということである。だから、俳句は、大文字で書き始めないし、ピリオドで終わらない。芭蕉の蛙の句を、もう一度、御覧なさい。この句には、大文字もピリオドもないが、しかし、ダッシュが使われている。ダッシュ、コロン、コンマ、あるいは感嘆符は、句中の小休止を示すのに使われることがある。この小休止は、「切断する語」（日本語で「切字」）という。日本語では、句中の小休止は、「や」「けり」あるいは「かな」のような短い語で表わされる。この小休止は重要で、たいてい、一行目か二行目の後にある。蛙の句では、一行目の終わり、池という語の後に使われたダッシュが、小休止を表わすために使われていることがわかる。日本語では、「古池」が池を意味し、「や」が切字である。この切字は、俳句に力強い感覚を創り出す助けとなるであろう。だから、自分の俳句的瞬間を表現するときには、このことを意識していなさい。ただ着実に実践し続けて下さい。

註 原書は、Patricia Donegan, *Haiku*, Tuttle Publishing 2003.

同書は、asian arts & crafts for creative kids シリーズの一冊である。

本稿では、同書の9 - 10頁を翻訳した。

本研究は、平成21 - 23年度科学研究費補助金（基盤研究C）「季節感、季節認識に関する比較文化研究—俳句の国際化を視座として」による成果である。